

『世界初の醸造製 ウイスキー蒸留器ポットスチルの開発』

ものづくり研究開発センター デジタルものづくり課 主任研究員 氷見 清和
(株)老子製作所・若鶴酒造(株)との共同研究

CONTENTS

研究紹介

- 01 世界初の醸造性ウイスキー蒸留器ポットスチルの開発
- 02 感光性ナノファイバーを用いたフレキシブルな透明電極パターンの作製
- 03 モニタリング用サポータの開発

設備紹介

- 05 自然環境負荷システム（超大型環境試験室）について
- 06 電磁環境負荷試験室と EMC 試験の概要

技術レポート

- 07 風合いの客観的評価法（KES）の紹介
- 08 GC-MS による樹脂変色の原因解明
- 09 振動試験機について

お知らせ

- 11 先端設備を用いたトレーニング研修 中高生ものづくり産業魅力探検事業について
- 12 国際会議レポート 令和元年度 受賞者・表彰者のご紹介

当センターと梵鐘のトップメーカーの(株)老子製作所、および北陸で唯一のウイスキー蒸留所がある若鶴酒造(株)が共同で、高岡銅器の高度な醸造技術を用いて、「世界初の醸造によるポットスチル」の製品化に成功しました。本製品は、従来の板金製と比べて、低価格、短納期で製作が可能であり、長寿命化・形状の再現性・酒質の調整可能・省エネ等の多くの優れた性能を有しています。

現在、若鶴酒造(株)三郎丸蒸留所では2器を設置し、実際にウイスキーの蒸留を開始しています。
(※本研究の概要は2頁にあります)



材質が異なる小型ポットスチル



3Dプリンターによる模型



若鶴酒造(株)三郎丸蒸留所に設置されたポットスチル

技

術情報誌第127号（2020年3月発行）をお届けします。

「研究紹介」（pp.1-4）では、H30年度の研究成果を紹介いたします。

「設備紹介」（pp.5-6）と「技術レポート」（pp.7-10）では、当センターに導入された設備の特徴や設備を用いた試験方法、分析事例についてご紹介します。

「お知らせ」（p.11）では、本年度に実施したトレーニング研修と中高生ものづくり産業魅力探検事業のご報告をいたします。最後に、今年度の国際会議出席のご報告と当センター研究職員の受賞者・表彰者のご紹介をさせていただきます（p.12）。